

サザエ稚貝資源の保全に関する研究

(予算区分県単 研究期間 (平成20～22年度))

担当：伊豆分場 海野 幸雄

【研究の背景とねらい】

サザエは磯根漁業の重要種であり、民宿等で地元のサザエが必要とされています。漁獲量には周期的な変動があり、地域による違いも見られますが、近年は変動が小さくなり漁獲量が低迷しています。アワビに比べて単価が安いので、放流事業には不適とされており、資源の維持・増大のためには漁場と資源の管理が必要です。一般に稚貝期の生残は生息環境に影響されることが知られていますが、これまでに、サザエの漁獲加入前の稚貝の減耗要因について明らかにした事例はありません。本研究では、サザエ稚貝の生残に対する植生、餌料、地形等の影響を評価し、稚貝から漁獲加入までの減耗要因を明らかにするとともに、地域の操業実態とあわせ、地域ごとのサザエ稚貝の保全に役立てます。

【これまでに得られた成果】

- ・平成21年3月に植生の異なる場所(石灰藻とテングサ場)へ9.78mmの稚貝を放流した結果、放流後の分散や成長の差は見られませんでした。
- ・石灰藻とテングサ場に放流した稚貝の消化管内には、褐色の内容物が主体を占めており、生息場所の植生と異なっていました。
- ・内容物の緑色はアオサ類、赤色はテングサ類と考えられますが、主体となる褐色内容物は今後の検討が必要です。
- ・静岡県漁獲量変動は、太平洋沿岸の和歌山、高知、徳島等と比較的高い相関がみられました。



サザエ消化管の内容物



平均10mmの放流稚貝

【期待される成果】

サザエ稚貝の好適な生息環境条件を明らかにするとともに、稚貝から漁獲加入までの減耗要因を明らかにします。これによりサザエ資源増殖のための基礎的知見が得られ、地域ごとの操業実態とあわせ、地域ごとのサザエ資源の安定に役立ちます。

【今後の計画】

- サザエ稚貝の生息環境の解明(20～22年度)
- サザエ稚貝の減耗要因の解明(20～22年度)
- 地区ごと、漁法別の漁獲実態把握(20～22年度)

(作成平成22年4月)